

みんなづくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

ことば遊び

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 江口, 一久 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001828



こ
と
ば
遊
び

三人のなにがあってもすいてくれる人と九つの女の恥の心

さて、この世でなにがあってもすいてくれる人がいる。三人はなにがあってもすいてくれる。

さて、(あとでいうが)三人の人たちはお金でかわなければならぬ。(いまからいう)三人の人たちはお金でかつても、かわなくても、おまえさんをはなさない。母親はなにがあっても、おまえさんをすいている。娘はなにがあっても、おまえさんをすいている。おまえさんの姉妹はなにがあっても、おまえさんをすいている。この三人にはなんの下心もない愛がある。三人はお金でかわなければならぬ。おまえさんの父親とおまえさんの息子とおまえさんの兄弟だ。おまえさんが、この三人の役にたたないと、三人はおまえさんをすいてくれない。この人たちの愛情はお金でかわなければならぬ。

さて、しかしながら、父方のおじはおまえさんの役にはたさないし、おまえさんをまったくすいてくれない。おじの子も、おまえさんをすいてはくれない。腹違いも兄弟も、おまえさんをすいてはくれない。

男というものは、主がつくられ、この世にやってきた日から、九つの恥の心をもってきた。男はその恥の心をもったまま死ぬ。

男の子は一つの恥の心をもってくる。男は一つの恥の心をもつて死ぬ。女も娘も、アツラーにつくられ、九つの恥の心をもつてこの世にやってくる。気をつけないと、女は死ぬとき、たった一つの恥の心すらのこさない。それはどういふことだろう。女が年頃の娘のとき、わかるとおもうが、九つの恥の心がある。結婚して、男のところへ嫁入りする日、水浴びをすると、三つの恥の心が落ちてしまう。女には六つの恥の心がのこる。三つの恥の心は、女がはらんで、子どもをうんだ日に、おちてしまう。のこるは三つの恥の心。女が浮気をする日、すなわち、よその男とねる日、結婚していない男とねる日、三つの恥の心はおちてしまう。これで、九つの恥の心はおしまになる。

男はなにがおこつても、恥ずかしいといい、にげていかない。男はなにがおこつても、恥ずかしいといい、人にものをやらないということはない。男はころされかけても、なかないという。わかるな。男は一つの恥の心はのこす。

でも、女の九つの恥の心は、ときとともに、みんななくなってしまう。

(なにがなくても、愛するというのは、財産とかかわりなく愛するということ。お金や財産目当てに愛してないことをいう。母親、姉妹、娘は財産の介在なくして、子どもや、兄弟、父親を愛す。男と女について、恥の心がちがうというのは、男性中心社会における、

男性の身勝手な言い分ともいえる。女性のなかにも、「男の心をもつ人」といわれる人がいる。この人は男性同様、恥の心をしっかりともっている人だとおもわれている。

(一九八三年一月一九日、語り手 ハンマドゥ・ハマ・ガープド、
ガウンデレにて)

287 三つの理由で三つのことをおそれよ

三つの理由で三つのことをおそれよ。三つのことをおそれるな。でも、三つのことをおそれよ。三つの理由で三つのことをおそれるな。多言をおそれるな。真実をかたる人をおそれよ。力をもっている人をおそれるな。きめたことをする人をおそれよ。弓の上手な人をおそれるな。矢毒をつくるのが上手な人をおそれよ。というのはいからだ。村長をおそれよ。村長と王さまがいっしょにいるといけないからだ。ちいさな川をおそれよ。というのはいちいさな川も、おまえさんをおおきな川にひっぱっていくからだ。学生をおそれなさい。というのはいちいさな川のためだ。

三つのことを信じるな。三つのことを信じよ。おまえさんの義理の父親（もしくは霧の母親）の愛を信じるな。一度の食事で安心するな。一年のあいだ食事ができるなら安心せよ。一年は一度にまさ

る。というのはいちいさな川も、おまえさんに食べ物があっても、村全体になかったら、おまえさんの食べ物はおまえさんの役にはたたない。村人に自分のところに食べ物がまったくないことをみせてやったほうがよい。でも、もし、おまえさんにはあるが、みんなのところはまったくなかったら、みんなは、夜にやってきて、おまえさんをころしてしまおう。村中どこにいても、食べ物がなく、おまえさんだけがもっていたら、おまえさんはおちついて、食べ物をたべることができるか。一度の食事というのはいちいさな川も、おまえさんが死んでも、体が丈夫なことにはまさる。争いがなければ、おまえさんになっても、よこになつておられる。もし、おまえさんのすんでいる地方に争いがおこったら、おまえさんは死んでしまう。おまえさんが死んでも、人びとはおまえさんを埋葬してはくれないだろう。

(一九八三年一月一九日、語り手 ハンマドゥ・ハマ・ガープド、
ガウンデレにて)

四つのカ・クラスのもの、四つのング・クラスのもの

四つのカ・クラスのものには役にたつ。四つのング・クラスのものには役にたたない。役にたつものは、四つ。役にたたないものは、四つ。カ・クラスのもので役にたつものは、皮でできた袋（シガフアッカ）、畑（シゲサ）、放牧（シガイナカ）、人につかえること（ファード）。四つの役にたたないものは、女であること（シデワーク）、非フルベ族であること（カーダーク）、若さ（シデルカーク）、不信心（ケーフェラーク）。女であることとは、女めらしいこと。それは不幸なだけだ。

（フルフルデ語の名詞はすべて、二十五の名詞クラスと称される範疇に属する。どちらかといえば、カ・クラスのことばはほしい具体的で、ング・クラスのことばは抽象的な概念のものがおおい。なお、原文では、アラビア語のケーフ、つまり、ローマ字のkをもつて、カ・クラスとング・クラスを代表させている）

（一九八三年一月一九日、語り手 ハンマドゥ・ハマ・ガープド、
ガウンデレにて）